

# 群青の風

題字 / 岐阜医療科学大学 学長 山岡一清様

第25号  
令和8年3月19日

発行

岐阜医療科学大学 同窓会

## 荒野を拓く蹄音とともに —現場の皆様への歩みに寄り添って

岐阜医療科学大学 同窓会会長 畦元 将吾

同窓会員の皆様、そして母校の志を継ぐ学生の皆様、早春の候、いかがお過ごしでしょうか。日頃より同窓会活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年は「午」年です。古来より馬は、人々の想いや命を乗せ、険しい道を越えて新たな地平へと運ぶ「躍動」と「献身」の象徴とされてきました。医療の在り方がかつてない速度で変わりゆく今、私たち同窓生一人ひとりがこの馬のように、力強くも誠実に、次代への道を切り拓く一年でありたいと願っております。

### 現場で尽力される皆様への敬意

はじめに、それぞれの専門性を活かして最前線で尽力されている皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。現在の医療界を取り巻く環境は、誠に峻烈を極めております。急激な人口減少や地方における医療不足、さらには経営環境の厳格化など、皆様が直面されているご苦労は、筆舌に尽くしがたいものとお察しいたします。多忙を極め

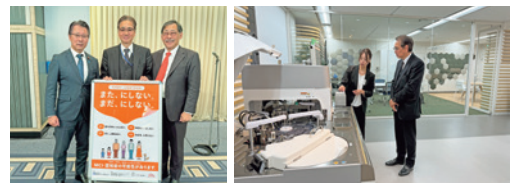
る日々の中で、理想と現実の狭間で葛藤し、時には立ち止まりたくなくなるような重圧を感じる日もあるのではないのでしょうか。地域医療の灯を絶やさぬよう、日々懸命に尽くされている皆様の歩みこそが、私たちの誇りです。

### 伝統と革新の融合

#### 「医療Maasと認知症対策への挑戦

そうした困難な時代において、母校が放つ一筋の光が、次世代医療への挑戦です。昨年より本格始動した医療Maas「メデイモGIFU」は、まさに現代に蘇った「名馬」といえる存在です。かつて馬が医療の届かぬ地へ医師を運んだように、最新のICTを搭載した車両が、自ら患者様のもとへ赴く。この「動く医療拠点」という革新的な試みは、全ての医療職が手を取り合う多職種連携の新たな舞台でもあり、母校が進化し続けている証左です。

また私自身も、国会議員時代から一貫して取り組んできた「認知症の早期発見推進」について、現在は民間の立場から引き続き国への働きかけを続け



ております。先日も議員会館にてMC I勉強会を開催し、多くの国会議員の皆様と共に最新知見を共有いたしました。血液バイオマーカーによる簡便な検査や、MRIを用いた高度な診断技術の普及、そして早期発見がもたらすインフォーマルケアコストの削減など、科学的根拠に基づいた政策提言を継続しております。この認知症対策こそ、全職域が関わる包括的ケアの要であり、立場は変われど皆様と共に「より良い医療」を創る情熱に変わりはありません。

### 激動期を共に生き抜くための「3つの指針」

この不透明な時代において、全ての医療職に携わる皆様が、真価を発揮し続けるための秘訣を三つ提示します。

#### 「専門性を超えた全体俯瞰力」

自身の専門領域を深めることはもちろん、医療Maasや認知症診断の新技术のように、他職種の領域や社会情

#### 「心に灯をともし人間性」

技術がどれほど進化しても、患者様やご家族の不安を掬い上げ、温かな言葉をかけるのは、私たち人間にしかできない役割です。皆様が現場で見せるその誠実さこそが、どんな時代にも淘汰されない、医療の本質的な価値となります。

#### 結びに

たとえ医療の現場が荒野であつても、志を同じくする仲間がいれば、道は必ず拓けます。岐阜医療科学大学の卒業生としての誇りを胸に、共に次代の地域医療を支えてまいりましょう。

また私事ながら、先の第51回衆議院議員総選挙にて当選を賜りました。現場の声を国政に届け、医療・福祉と人材育成に全力で挑みます。今後ともご支援をお願い申し上げます。

# 令和6年度

# 事業報告

## 会 議

### 5月役員会

令和6年5月1日 19:00～  
 母校 同窓会室Web併用出席8名、委任状3名

#### 審議事項

1. 名簿管理業者の選定について
2. 令和6年度予算について
3. 図書助成について
4. 幹事会の開催について

### 9月役員会

令和6年9月26日 19:00～  
 母校 同窓会室Web併用出席6名、委任状5名

#### 報告事項

1. 新役員の紹介
2. 名簿移行の進捗

3. 同窓会費集金について
4. 岐療祭 卒業生と語る会について

#### 審議事項

1. 令和6年度 会報発行について
2. 同窓会助成について
3. メディカルムーバー事業への助成について
4. 超音波センターの卒後教育について
5. 令和5年度卒業記念品の会報掲載について

### 11月役員会

令和6年度11月27日 19:00～  
 母校 同窓会室Web併用出席5名、委任状5名

#### 報告事項

1. 卒業記念品について

#### 審議事項

1. 会員名簿移行作業について
2. 令和6年度 会報発行について

### 1月役員会

令和7年1月29日 19:00～  
 母校 同窓会室Web併用出席5名、委任状5名

#### 報告事項

1. ホームページの更新について
2. 会員情報システムについて
3. 会報の進捗状況について
4. 図書助成費の支払いについて
5. HP管理委託費用の支払いについて

#### 審議事項

1. 令和6年度卒業生の同窓会費未納について

## 活 動

### 1. 会報「群青の風」第24号

2月20日 8,701通投函  
 群青の風冊子等郵送、及び返送会報のデータ化。名簿システム仮ID・パスワード発行と郵送手配など総額1,892,500円

### 2. 母校への寄贈図書

令和6年度図書の助成について図書館の充実を図るために助成している。選書ツアーを定期的に開催し、各学科の学生により選書が行われている。507,064円 手数料440円

### 3. 国家試験会場での副食配付

全学科額面500円のQUOカードの支給となった。支給内訳はM87枚、R116枚、N97枚、助産17枚であった。169,880円分購入 代引き手数料含む

### 4. 卒業生へ卒業記念品の贈呈について

『仕分け収納ポーチ』を贈呈した。内訳は310個(M81個、R103個、N97個、NW17個、MHM6個、予6個)であった。169,136円 手数料440円

### 5. 同窓会子女入学準備金給付

資格審査を行い7名の会員に給付した。

504,000円 手数料3,080円

### 6. 同窓会助成金

本年度の助成は1件でした。76,550円 手数料440円

### 7. 慶弔

祝電2件。2,860円でした。

### 8. 会員データシステム関連

システム構築初期費用 333,300円 手数料440円  
 利用料月額 27,500円×7ヶ月(7-1月まで)、46,200円×2ヶ月(2-3月まで)  
 ※登録データ量による従量課金のため。

## 総 括

令和6年度も、会員の皆様の温かいご協力のもと、同窓会活動を滞りなく進めることができました。例年通り、会報「群青の風」第24号を8,701通発行し、名簿システム仮ID・パスワードの郵送を合わせて実施いたしました。また、母校への寄贈図書助成については、学生による選書ツアーを通じて図書館の充実を図り、学習環境の一層の整備に寄与いたしました。さらに、国家試験会場においては全学科の受験生へ副食配付(QUOカード支給)を行い、卒業生には卒業記念品として「仕分け収納ポーチ」を贈呈いたしました。

また、同窓会子女入学準備金については資格審査の上7名に給付を行い、同窓会活動助成については1件に対して支援を実施いたしました。加えて、祝電の送付や慶弔対応も行い、会員相互のつながりを大切にする取り組みを継続いたしました。

本年度の新たな取り組みとしては、会員名簿管理システムの構築・移行に着手し、初期費用の投入および月額利用料による運用を開始いたしました。これにより、返送会報のデータ化や情報管理の効率化を進め、将来にわたる円滑な同窓会運営体制の基盤づくりを推進しております。

さらに、卒後教育事業への助成、図書助成費やホームページ管理費の支払いなど、母校との協力関係を深める活動も実施いたしました。

これらの事業は、会員の皆様からのご支援とご協力の賜物であり、ここに改めて厚く御礼申し上げます。今後も同窓会活動のさらなる発展と母校の教育環境の充実に寄与できますよう、一層努力してまいりますので、引き続きのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 令和6年度決算報告・令和7年度予算報告

項目		令和6年度予算	備考	令和6年度決算	備考	令和7年度予算	備考
収入の部	繰越金	手持現金	65,042	65,042		128,130	
		普通預金	4,080,693	4,080,693		4,015,906	
		定期預金	20,000,000		20,000,000		20,000,000
	会費	3,750,000	15,000円×250名	4,320,000	15,000円×288名	2,520,000	15,000円×168名
	雑収入	160,000		158,500	QUOカード購入	0	
	寄付金	0		0		0	
	定期利息	300		340		300	
	普通利息	100		3,107		3,000	
合計	27,627,292		28,627,682		26,667,336		

支出の部	活動費	600,000	HP更新、学術フォーラム、研修会、名簿管理等	181,620	HP更新、名簿管理等	200,000	HP更新、研修会、名簿管理等
	会議費	100,000	役員会、幹事会	65,575	役員会、幹事会	70,000	役員会、幹事会
	交通費	100,000		37,500		30,000	
	慶弔費	10,000		2,860		10,000	
	通信費	1,950,000	群青の風発行、各種郵送	2,249,774	群青の風発行、各種郵送	1,700,000	群青の風発行、各種郵送、名簿管理サービス
	備品費	1,500,000	名簿管理システム構築	343,200	名簿管理システム構築	0	
	消耗品費	50,000		12,507		30,000	
	助成費	1,700,000	書籍、副食配付、入学準備	1,584,130	書籍、副食配付、入学準備	1,100,000	書籍、入学準備、同窓会助成
	特別費	0	50周年事業	0	50周年事業	3,000,000	MaaS車両への援助
	渉外費	50,000		6,480		10,000	
	予備費	100,000				0	
	小計	6,160,000		4,483,646		6,150,000	
	繰越	手持現金	100,000		128,130		100,000
普通預金		1,367,292		4,015,906		417,336	
定期預金		20,000,000		20,000,000		20,000,000	
合計	27,627,292		28,627,682		26,667,336		

### 予算

令和7年度の同窓会事業計画に基づき、予算案を以下の方針で策定いたしました。

まず、会報『群青の風』の発行、各種郵送業務、および会員名簿管理サービスに係る費用として、170万円を計上しております。これらは、会員への情報発信体制の維持と、電子的会員情報管理システムの安定的な運用に必要な基盤経費です。

一方で、新規入会員数の減少や支出全体の見直しを背景に、一部事業の縮小を行いました。具体的には、国家試験会場周辺の食事調達環境の整備が進んだことを受け、令和6年度をもって副食事業を終了いたしました。また、大学への助成の幅が広がってきたことから、重複

を避ける観点で助成内容を整理し、書籍助成については縮小しております。

その一方で、特別費として新たに、「医療モビリティ・アズ・ア・サービス(医療MaaS)」車両への助成を計上しました。本学および教育後援会との連携により、地域における医療アクセスや学生支援を目的とした移動手段の充実に貢献するものであり、同窓会としての社会的役割を果たす新たな取り組みと位置づけています。

このように、令和7年度の予算案は、事業の継続性と柔軟な見直しの両立を図り、時代や大学の状況に即した実効性の高い予算構成としています。限られた財源を有効に活用し、同窓会の使命を今後も果たしてまいります。



## 令和7年度事業計画

令和7年度は以下の事業を実施する予定です。

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 会報「群青の風」第25号の発行          | 8. 図書館への書籍寄贈             |
| 2. 同窓会開催への助成                | 9. 定例役員・幹事会・代議員会の開催      |
| 3. 同窓会子女入学準備金給付制度の運用        | 10. 卒後教育制度の実施            |
| 4. 会員データのクリーンアップ(管理システムの運用) | 11. 岐阜医療科学大学祭(岐療祭)の協力・支援 |
| 5. ホームページ運用                 | 12. MaaS車両への協力・支援(特別事業)  |
| 6. 入学式・卒業式への祝電ならびに会員の慶弔電報   | 13. その他                  |
| 7. 卒業記念品の贈呈                 |                          |

令和7年度も、これまで継続して実施してきた各種事業を引き続き行うとともに、社会環境や大学の状況の変化を踏まえ、新たな取り組みや体制の強化を図ってまいります。

本年度は、会報「群青の風」第25号の発行を予定しており、会員の皆様に向けて同窓会の活動状況や大学の近況などを広く発信してまいります。また、各地で開催される同窓会への助成を継続し、卒業生同士の交流促進を支援します。

同窓会子女入学準備金給付制度については、昨年度の7名の申請に続き、今年度も引き続き広報を行い、多くの方にご活用いただけるよう取り組んでまいります。

会員情報の正確な管理を目的とし、データのクリーンアップを進めるとともに、電子的会員管理システムの安定的な運用を継続いたします。これにより、今後の案内や連絡体制の効率化を図り、会員サービスの質の向上を目指します。

一方で、近年の新規入会員数の減少や支出全体の見直しを受けて、一部事業の整理・縮小を行いました。具体的には、国家試験会場周辺の食事調

達環境の改善を受け、令和6年度をもって副食事業を終了するとともに、大学による助成の範囲が広がってきたことから、重複を避ける観点で助成内容を整理し、書籍助成は見直し・縮小いたします。

その一方で、特別事業として「医療モビリティ・アズ・ア・サービス(医療MaaS)」車両への協力・支援を、本学および教育後援会と連携して実施いたします。地域の医療アクセスや学生の移動支援に貢献する新たな取り組みとして位置づけています。

さらに、入学式・卒業式への祝電、会員の慶弔への電報対応、卒業生への記念品贈呈、図書館への書籍寄贈、大学祭(岐療祭)への協力など、恒例の事業も継続して実施してまいります。

また、定例の役員会・幹事会・代議員会を開催し、会の運営体制を強化するとともに、卒後教育制度の再構築や同窓会組織の在り方についても、本学と連携しながら検討を進めてまいります。令和7年度も、時代の変化に柔軟に対応しつつ、会員の皆様とのつながりを大切に、より意義ある同窓会活動を展開してまいります。

### 同窓会子女の皆様へ

## 入学準備金5万円を給付します。

**目的：**同窓会正会員の子女の入学に関する経済的負担を低減  
同窓会会員子女の本学への就学支援

- 給付要件：**
- (1) 本学同窓会正会員の子女であること。
  - (2) 本学が設置する大学院・学部・専攻科に新たに入学する子女であること。
  - (3) 本学同窓会正会員、又はその配偶者が当該子女を扶養していること。
  - (4) 給付回数は子女1名につき一度までとする。

**準備金の額：**採用者1名につき5万円

ただし、採用者が6名以上の場合、減額して支給

お問い合わせ先：[obog-info@u-gifu-ms.ac.jp](mailto:obog-info@u-gifu-ms.ac.jp)

### 同窓会名簿管理システム運用のご案内

岐阜医療科学大学同窓会では、会員の皆様が同窓会ホームページを通じて、ご自身の情報の更新や閲覧を行える「同窓会名簿管理システム」を導入し、現在運用を開始しております。

本システムでは、会員専用のユーザーIDおよびパスワードを用いてログインし、ご自身の登録情報を管理・更新していただけます。なお、機能面および運用管理面においては、個人情報保護の観点から十分なセキュリティ対策を講じております。会員の皆様にとって有益なシステムとなるよう、今後も運用の改善に努めてまいります。

また、昨年は仮IDおよび仮パスワードを、登録されているご住所宛に送付いたしましたが、宛先不明等により不達となった事例も多くございました。現在も仮IDおよび仮パスワードの発行は事務局にて行っておりますので、お手元に届いていない方、紛失された方は、同窓会ホームページの「お問い合わせ」よりご連絡いただけますと幸いです。

# 岐 療 祭

関キャンパス学生自治会会長 **松尾 祐弥**

令和7年11月1日、関キャンパスにて、第20回「岐療祭」を開催いたしました。今年度は「楽しさは無限大」という意味が込められた『Funfinity』をテーマに掲げ、学生自治会を中心に一丸となって準備を進めてまいりました。

当日は、数年ぶりとなる屋外ステージを設営し、出演者の素晴らしいパフォーマンスによって会場全体が大いに盛り上がりました。また、ビンゴ大会や脱出ゲームといった自治会企画に加え、ゲスト企画や模擬店、GUMSマルシェ、キッチンカーも大盛況となり、同窓会員の皆様をはじめ、多くの方々に“Funfinity”なひとときをお届けできたと確信しております。

来年度は、今年度を超える、さらにパワーアップした岐療祭に、ぜひご期待ください。

最後に、第20回岐療祭の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力を賜りましたすべての皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



可児キャンパス自治会会長 **塩野入 朱香**

可児キャンパスの岐療祭を、11月2日(日)に開催いたしました。

医療に関するクイズの企画や献血の啓発活動に携わり、来場者に医療を身近に感じてもらう取り組みを行いました。クイズでは、年齢や知識の差に配慮しながら内容や説明を工夫する難しさを感じましたが、楽しみながら学んでもらえたことにやりがいを感じました。

また、献血について正しい知識を伝えることで、医療を支える一員としての意識を高めてもらえたと思います。さらに、可児市と協力し、ペットボトルの完全リサイクル(B to B)活動について、周知を行いました。

地域と連携した取り組みを行えたことは貴重な経験でした。医療は現場だけでなく、行政や地域との協力によって成り立っていることを実感し、今後の学びや将来に生かしたいと強く感じました。



令和7年度

卒業記念品

可児キャンパスに寄贈する卒業記念品は、屋外2面ポール太陽電池時計とマイクスタンド(音響設備)です。本学に保健科学部看護学科が開設した2006年から21年が経ちました。それ以前から時計塔は時刻を知らせてきましたが、老朽化によりその機能が果たせなくなりました。記念品にはソーラーパネルが付いています。2点目は持ち運びができるマイクスタンド(音響設備)です。体育祭や防災訓練などに参加した学生に向けて講話する際に便利だと思えます。いずれも大切に利用してください。



交換後の時計



交換前の時計



## 学部教員の紹介

### 保健科学部臨床検査学科

田下 智栄子 先生

同窓会会員の皆様におかれましては、平素より温かいご支援とご協力を賜り心より御礼申し上げます。私は主に生理検査に関する講義および実習を担当しております。現在のカリキュラムでは、1年次後期より心電図検査や呼吸機能検査の講義が始まり、学生にとってはやや難しく感じられる専門科目であるかもしれません。しかしながら、心電図検査は臨床検査技師が最も力を発揮できる分野の一つであり、学生が少しでも理解を深められるよう、日々工夫と自己研鑽を重ねております。また研究活動としては、藤田医科大学にて客員研究員として、トリプトファン代謝における病態制御に関する共同研究を行っております。教育および研究を通して、学生が「臨床検査技師になってよかった」と思えるよう支援していきたいと思っております。今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



研究室学生との懇親



### 保健科学部放射線技術学科

北 章延 先生

同窓会員の皆様、平素より温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

私は核医学検査学など、核医学に関わる講義および実習を担当しております。放射性医薬品の特徴から撮像原理、画像評価の考え方を、臨床現場で確実に活用できるよう、実践を意識した授業づくりを心がけています。実習で長年活躍してきたSPECT装置は今年度、更新が予定されております。今後は新たな装置を活用し、より実践的な学修機会の充実に努めてまいります。

同窓生の皆様の現場の声、教育や研究の大きな原動力となります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



本学放射化学実験室で長年活躍してきたSPECT装置 (Siemens社製 E.CAM)



### 看護学部看護学科

水谷 さおり 先生

#### 教育について

私は「母性看護学」を担当しています。この分野では、女性の生涯を通じた性と生殖に関する健康についての看護に必要な知識と技術を教えています。演習や実習では、妊娠・分娩・産褥・新生児期における身体・心理・社会的変化の理解と、それに伴う母子とその家族の課題について、看護師の役割や安全で安楽な看護ケアを主体的に考え、実践できる学生を育成することを重視しています。

#### 研究活動について

「更年期の女性の健康と運動」をテーマに、本学教員(看護学科8名、臨床検査学科1名、薬学科1名)でチームを組み研究しています。対象者には、可児市近隣の運動不足の更年期世代の女性を募集し、研究に興味を持ってくださった方々の協力を得て、データを収集することができました。現在、教員仲間と研究プロセスを分かち合いながら、データ分析に奮闘しています。



#### メッセージ

同窓会員の皆様、平素より温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。地域連携センター活動にて、可児市のパパママ教室や更年期予防教室、看護体験キッズイベント、地域住民の方の健康チェックなどに参加することも多いので、お気軽にお声がけください。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 薬学部薬学科

山下 弘高 先生

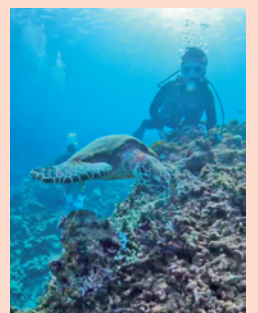
同窓会員の皆様からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。2025年に本学へ赴任しました。私は学位を取得した後、岐阜薬科大学に所属し、その間に、サンディエゴ(南カルフォルニア)で1年間ポスドクをし、本学の前は琉球大学に所属していました。サンディエゴといい、沖縄といい、暖かい土地に縁のある経歴です。久しぶりの岐阜の寒さ(と暑さと花粉)に体がついていけないです。本誌に載せる写真が思いつかなかったので、沖縄で海に潜ってウミガメに出会ったときの写真を掲載します。

教育分野では薬理学関連の講義を担当しております。毎年、新しい薬がでてくるので、どのように説明したら解りやすいか日々悩んでいます。研究では食物アレルギーをテーマとして、食べものに対してアレルギーが生じる仕組みを解明しています。

本学の発展のため貢献したいと思っております。皆様からも変わらぬご支援をお願い申し上げます。



慶良間諸島付近の海へ潜りました。ダイバーライセンスを取得しています。



## 企画課 大学の未来を創る推進役

企画課は、令和7年度に「大学の価値向上」と「新たな取り組みの企画・実行」を担う部門として新たに発足いたしました。企画課の業務は、主に「大学広報」と「外部連携」の二つの柱で構成されています。

### 広報と価値創出

大学広報においては、公式ホームページの全体管理と、Instagram、YouTubeショート、TikTokなどのSNS施策を通じて戦略的な情報発信を強化しています。また、大学の魅力を高める「新規価値創出」にも注力しており、「高校生未来創造コンテスト」の開催や、岐阜県地方創生事業として「オリジナルゲーム制作」や「メディカルツアー」などの企画を推進しています。これらの活動を通じて、地域や社会に対する大学の貢献を可視化しています。



### 広範な外部連携

企画課は、大学の資源を最大限に活用するため、高大連携、病院連携、地域連携、産学官連携といった多岐にわたる外部連携を積極的に展開しています。

具体的な取り組みとしては、高校生向けの「チーム医療PBL授業」や、可児市と連携した「不登校児童支援」、「良品計画(無印良品)」との共同企画による産学連携などがあります。さらに、病院連携では中部国際医療センターや松波総合病院との連携企画を進めており、医療MaaS車両(メディモGIFU)の活用も推進しています。

今後も、企画課は大学のブランディングと新しい教育・研究活動の機会創出を目指し、常に未来を見据えた企画を積極的に実行してまいります。

## 同窓会助成金運用規程

### (目的)

第1条 この規程は、岐阜医療科学大学同窓会(以下同窓会という)会則第4条第2号並びに第4号に基づき、本同窓会助成金運用規程にてらし助成金運用を図る。

### (適応範囲)

第2条 会員相互の親睦事業が有意義に、また、友好に活動できるような助成をし、適応範囲については以下の項目を満たしていること。

1. 卒業科・卒業回生が同じであること(卒業科・卒業回生の重複は可能)
  2. 都道府県・市区町村単位であること(都道府県・市区町村の重複は可能)
  3. 前記1. 2. の申請があった場合、参加枠の外れた同窓生の参加も可能
  4. 申請により同窓会役員会若しくは幹事会で承認されたもの  
※各項目のいずれかに該当すればよい
- (義務・助成支出条件)
- 第3条 助成金の支出にあたり以下のものを提出すること。
1. 参加者の卒業学校・卒業回生・氏名・所属先・住所
  2. 全員で写った写真
  3. ホームページや機関誌に載せる原稿
  4. その他、同窓会事務局からお願いしたもの
- (助成範囲)
- 第4条 適応範囲・第2条の詳細として助成範囲を以下のものとする。

1. 参加募集数に対し1割以上の参加の場合

2. 参加人数が最低10人以上の場合(クラス単位は2割の出席)

3. 同一事業で助成できるのは年度に付き1回までとする

4. 会員参加者の中の施設数は8カ所以上とする

5. 申請により同窓会役員会若しくは幹事会で承認されたもの

### (助成金)

第5条 助成金は以下のものとする。

1. 参加募集通信費実費(葉書・封書等に関わる実費)を助成する。参加者においては1人につき、金1,000円助成する
2. 卒業生の定年対象年又は定年後1回に限り助成金を2,000円とする
3. その他の活動の場合、同窓会役員会若しくは幹事会にて決定をする

### (雑則)

第6条 この規程の定めるもののほかの特  
別な事由が生じた時は、役員・幹事会で協議決定をする。

第7条 この規程は幹事会の議決を経なければ変更することができない。

附則 この規程は平成22年4月1日より施行する

附則 この規程は平成27年5月28日より施行する

## 臨床経験を、次の学びへ — 本学大学院の学び

保健医療学研究科長 成 順月

本学の大学院保健医療学研究科は、今年、第10期生が修了し、新たに第11期生を迎えます。これまで多くの看護師、臨床検査技師、診療放射線技師が、臨床経験を土台に学びを深めてきました。修了生の中には、大学教員として教育・研究に携わる方や、病院で研究・教育担当として現場を支えている方もいます。

本研究科では、多職種連携やチーム医療の視点を大切にし、日々の実践の中で生まれた「なぜ」を研究として丁寧に掘り下げていきます。研究成果を国際学会で発表したり、海外の学術誌に論文投稿したりする学生も少なくありません。

教員による丁寧で継続的な指導や支援体制が整っており、安心して挑戦することができま

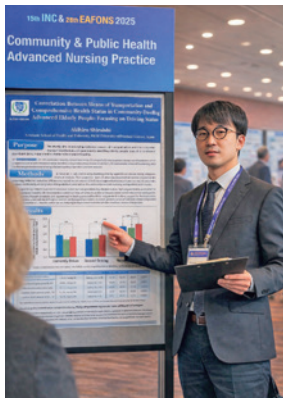
す。また、研究で得られた知見は臨床現場へ還元され、実践の質の向上や新たな取り組みへとつながっています。

本学卒業生には入学金免除制度もあり、学び直しを後押ししています。遠隔視聴で受講できる授業も多く、仕事と学びを無理なく両立できます。臨床経験を次の力へと発展させたい皆さまの進学を、心よりお待ちしております。

※募集案内は下記二次元コードよりご覧ください。



学びを世界へ  
— 国際学会での研究発表



卒業証書・学位記を  
手にした笑顔の集い



## 定年退職のご挨拶

保健科学部放射線技術学科 小野木 満照

昭和57年4月就職以来44年間さらに学生として過ごした3年を合わせた47年間、母校と関わって参りましたが、令和8年3月末日を以て退職いたします。卒業生の皆様はじめ教職員並びに法人関係の皆様、長い間お世話になりありがとうございました。

教職の醍醐味はヒト育成ですから、平成22年初めて卒業生のお子様が本学科に入学してきた時は感慨深いものがありました。在学当時の様子をお子様にお話する時が来るとは夢にも思いませんでした。その後も着実に親子二代の入学が続いていますが、他学科、専攻科にも及んでいます。本当に感謝の一言です。

今後も卒業生の皆様に気に掛けていただける母校であって欲しいと願ひ卒業いたします。



## 編集後記

薬学部開学からの歩みが実を結び、今年度、初の卒業生を迎えることとなりました。自身の卒業した頃を思い返すと、社会も母校も大きく変化してきましたが、母校で過ごした日々の思い出は今も変

わることはありません。今後も母校との繋がりを大切に、母校と卒業生一人ひとりのさらなる発展とご活躍を心より願っております。

同窓会役員 福澤記